

当社のコーポレート・ガバナンスの状況は以下のとおりです。

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方及び資本構成、企業属性その他の基本情報

1. 基本的な考え方

従業員、取引先、地域社会といった企業を取り巻く関係者の利害関係を調整しつつ株主の利益を最大限尊重し、企業価値を高めることが経営者の責務であり、取締役会の監督機能、監査役会の監査機能及び社内諸規程・組織・業務分掌等を含めた内部統制システムを有効に発揮させることによって、健全で持続的な成長を確保することがコーポレート・ガバナンスの基本であると考えております。

また、社内の法令遵守に対する倫理観の浸透並びに情報開示の適切性、透明性及び信頼性の確保に努めることも、経営者の基本責務であると考えております。

当社は、経営理念である「先端ニーズの未来を見据え、最新の情報でグローバルなパートナーシップを構築します」に基づき、公正で透明性のある事業活動を行うとともに、ステークホルダー(利害関係者=株主、従業員、顧客、地域住民、環境など)に対し、社会的責任(CSR:Corporate Social Responsibility)を果たすため健全な企業経営の推進に努めております。

そのための行動指針を以下のとおり定めております。

1. 法令及び社会規範の遵守
法令及び社会規範を遵守し、公正で透明性を堅持し、社会から信頼される事業活動を行います。
2. 顧客との信頼関係の維持
公正で健全な取引を行うことで、顧客との信頼関係の維持継続に努めます。
3. 適切な企業情報の開示
適正な情報管理を行うとともに、企業情報は適切に開示いたします。
4. 自由闊達で活力ある組織・企業風土の醸成
社員の個性、能力が最大限発揮できる職場環境を整備し、自由闊達で活力ある組織・企業風土の醸成に努めます。また、社内のコミュニケーションを密にし、情報の共有化を図ります。
5. 環境の保全と事業活動との調和
国際社会の規律を守り、地球環境の保全に努めます。事業活動においても環境保全に配慮した省資源、省エネルギー商品等の提供とサービスを行い、環境保全との調和を目指します。

【コーポレートガバナンス・コードの各原則を実施しない理由】 更新

2021年6月の改訂後のコードに基づき、記載しております。(2022年4月4日以降適用となるプライム市場向けの原則を含む)

原則3-1

(1)当社の経営理念や経営戦略、経営計画は当社ホームページ、有価証券報告書及び決算短信に掲載しております。

<https://www.tomendevices.co.jp/ir/library/>

(2)当社は、従業員、取引先、地域社会といった企業を取り巻く関係者の利害関係を調整しつつ株主の利益を最大限尊重し、企業価値を高めることが経営者の責務であり、経営者である取締役の職務執行において、取締役会の監督機能、監査役会の監査機能及び社内諸規程・組織・業務分掌等を含めた内部統制システムを有効に発揮させることによって、健全で持続的な成長を確保することをコーポレート・ガバナンスの基本であると考えております。

(3)当社は、経営陣幹部・取締役(社外取締役除く)の報酬について、当社の持続的な成長および経営理念、経営方針の実現に向けた動機付けに資するものとし、株主利益と連動した報酬体系とし、個々の取締役の報酬の決定に際しては各職制を踏まえた適正な水準とすることを基本方針としております。今後、取締役会の諮問機関である役員報酬委員会で、報酬体系や方針の決定、個別の報酬額について審議を経て、取締役会において決定してまいります。

(4)当社は、取締役・監査役を含む経営陣幹部の選解任、指名の方針と手続きの策定について、取締役会の諮問機関である役員人事委員会で審議を経て、取締役会において決定してまいります。

(5)当社は、定時株主総会招集通知に、候補者全員の個々の選任・指名についての説明を記載しております。

補充原則3-1-3

当社は、ESGへの取り組みを通して持続可能な社会の実現に向けた新たな価値(社会的価値・経済的価値)創出を実現することを目指しております。

2020年4月に策定した中期経営計画では、経営課題をESGの要素にグルーピングし、次世代リーダーを中心にワーキンググループを組成し、打ち手の議論をおこなっております。

今後、サステナビリティについての具体的な取り組みに関して開示するなど検討してまいります。

当社は、人的資本や知的財産が重要な経営資源であると認識しております。技術研修等の各種実務研修やOJTを通じてスキル・アップを図り、人的資本の蓄積に努めており、蓄積された技術と知見を最大限に活用して、それらを成長させることが当事業の継続性と成長性に最も重要な要素になると考えております。

また、当社は、社員が柔軟、かつ、効率的に働ける環境を作り、人材の確保や有効活用、および、生産性向上を実現し、自分らしさが活かせる働き方を実現することを方針として、様々な取組みを検討しております。社員が新しいことに挑戦し、会社と、社員自らが成長していくためには、自律的な働き方を支える環境づくりが不可欠だと考えております。

今後、人的資本、知的財産への投資についても、サステナビリティ推進委員会で検討してまいります。

一方、気候変動に係るリスクと収益機会が当社の事業活動や収益等に与える影響について、当社は、必要なデータの収集と分析が未だ十分にできていないため、TCFDまたはそれと同等の枠組みに基づく開示はできておりません。

今後、取締役会の下にサステナビリティ推進委員会を設置し、国際的に確立された開示の枠組み等を参考に開示の充実を図ってまいります。

補充原則4-1-3

当社は、最高経営責任者(CEO)等の後継者計画を策定することについて、取締役会の諮問機関である役員人事委員会で審議してまいります。

補充原則4-2-1

当社は、業務執行の取締役の報酬は、固定報酬としての基本報酬および業績に連動した報酬で構成し、監督機能を担う社外取締役については、その職務に鑑み、基本報酬のみ支払うこととしております。

今後、取締役会の諮問機関である役員報酬委員会で、客観性・透明性ある手続きに従い、中長期インセンティブ報酬の設計なども含め検討してまいります。

補充原則4-2-2

当社は、企業価値の向上の観点から、サステナビリティをめぐる課題対応を経営戦略の重要な要素と認識しております。サステナビリティの取り組みについては、環境に関する要素に加え、人的資本や知的財産への投資等の社会に関する要素の重要性が指摘されている点も踏まえて開示することを検討してまいります。

また、取締役会のもとにサステナビリティ委員会を創設し、方針の策定・課題の整理・監督を行ってまいります。

補充原則4-3-2

当社は、CEOの選解任に関して、客観性・透明性ある選解任手続きを策定し、取締役会で十分な議論を行うことで、資質を備えたCEOの選任することを、取締役会の諮問機関である役員人事委員会で審議してまいります。

補充原則4-3-3

当社は、CEOの解任に関して、客観性・適時性・透明性ある手続きを策定し、取締役会で十分な議論をおこなう体制について、取締役会の諮問機関である役員人事委員会で審議してまいります。

原則4-8

当社の2名の独立社外取締役は、異なる分野での豊富な経験を有し、取締役会や諮問委員会において、公正かつ客観的な立場から発言するなど、その機能を十分に果たしています。また、支配株主との取引について、必要性・合理性・相当性について特別委員会において審議し、取締役会に答申してまいります。

当社は、さらなるコーポレート・ガバナンス充実の観点から、独立社外取締役の構成比率を3分の1以上とすることが適切であると考えており、候補者の選任に向け人選を進めております。

【コーポレートガバナンス・コードの各原則に基づく開示】 更新

原則1-4

政策保有株式について、資本の効率性、株式の流動性の観点から縮減の方針とします。

保有する個別の政策保有株式については、縮減の方針に則し、市場環境や経営・財務戦略等を考慮し、縮減を進めてまいります。

議決権の行使については、上述の保有方針に適合するか、発行会社の健全な経営と企業価値の向上に資するか等を総合的に勘案し、各金融機関が発表しているスチュワードシップ・コードや投資助言会社の議決権行使方針等も参考にし判断することとしております。

原則1-7

当社は、当社と当社役員個人との直接取引、及び、当社と当社取締役が代表となっている他団体や他会社との取引など、会社法に定める利益相反取引については、当社の「取締役会規則」に基づき事前に取締役会の承認を得ております。

また、主要株主との取引については、他の一般取引と同様に市場適正価格を適用しております。加えて、特別委員会において、取引に関する必要性・合理性・相当性について審議してまいります。

補充原則2-4-1

<多様性の確保についての考え方>

当社では中期経営目標の「グローバル競争に勝ち残る持続的成長可能な企業」を目指し、能力、実績を重視した人材登用を推進しております。

また多様な人材確保に向け中期経営計画においての取組み施策として

- ・D&I推進(女性活躍、シニア活躍の推進)
 - ・人材育成(マネジメント人材育成の推進)
 - ・在宅勤務など柔軟な働き方の推進
- を実施し多様性の確保に努めてまいります。

<多様性の確保の自主的かつ測定可能な目標>

- ・女性管理職への登用に関しては、現在 女性社員の大半が一般職採用のためございませんが、中期経営計画において策定した就労環境の整備、登用にむけた育成施策を加速し、2024年度には2.5%程度とし、中途採用を含め積極的に管理職への登用に努めていくことで2030年度には 10.0%程度を目指して参ります
- ・外国人管理職は現在11%を登用しており今後も同程度を維持する方針であります
- ・中途採用者管理職は現在60%を登用しており今後も同程度を維持する方針であります

<多様性の確保の状況>

女性管理職の登用は現在ございませんが、前記の目標に向けて中期経営計画の取組み施策を実施し達成に向けて推進しております。

外国人管理職は現状を維持し、グローバル対応に向けて積極的に登用いたしております。

中途採用者管理職は実績を重視し、積極的に採用 及び 社内からの登用を進めております。

<多様性の確保に向けた人材育成方針、社内環境整備方針、その状況>

多様な人材を確保できるように職掌転換制度 や 地域限定職を検討し、また社員の働きやすい環境を整えていくため在宅勤務制度などの導入に向けて、現在 中期経営計画を推進しております。

原則2-6

当社は、豊田通商グループの企業年金基金に加入しており、当社と独立した団体でありあります。その運用については、同基金の判断にゆだねられますが、当社も母体企業として、企業年金の運用が従業員の資産形成や自らの財政状態に影響を与えることを十分認識し、企業年金がアセットオーナーとして期待される機能を実効的に発揮できるよう、当社からも人材を同基金の理事として任用し、適切な体制の下で運用されるよう配慮しております。

企業年金の運用に関して、受益者の利益の最大化および利益相反取引の適切な管理を目的に、資産運用委員会や理事会での意見を踏まえて、代議員会で決定しています。

補充原則4-1-1

当社は、取締役会規則、職制規程及び稟議規程を制定し、代表取締役及び取締役会として何を判断・決定するのかを明確化し、取引・業務の規模や性質に応じて定めた決裁権限に基づき、経営にあっております。

当社取締役会の決定事項または承認事項は以下のとおりです。

- (1) 株主総会に関する事項
- (2) 取締役に係る重要事項
- (3) 株式及び社債に関する重要事項
- (4) 経営一般に関する重要事項
- (5) 業務執行、組織及び人事に関する重要事項 等

原則4-9

当社の独立社外取締役の独立性判断基準は、会社法に定める社外取締役の要件及び東京証券取引所が定める独立性基準としております。また、当社が独立社外取締役に求める資質は以下の通りです。

- ・ 誠実で、かつ当社の経営課題について積極的に提言・提案や意見を行うことができる人物。
- ・ 経営者としての経験またはそれに代わる法律・業界等の豊富な専門知識を有する人物。

補充原則4-10-1

任意の役員人事委員会、役員報酬委員会概要

【目的】

取締役の指名や報酬等の決定に係る手続きの客観性や透明性、公正性を高めること

【役割】

役員人事委員会および役員報酬委員会は、次の事項のうち、取締役会から諮問を受けた事項について、審議し、取締役会に答申いたします。

(1) 役員人事委員会

- 取締役会の構成についての考え方
- 取締役の選解任に関する方針及び基準
- 取締役の選解任・人事案、並びに人事に関する重要事項
- 社長等の後継者育成計画の策定・運用に関する事項
- 前各号に定める事項に関連する開示内容の原案
- 前項以外の役員人事に関する事項で、取締役会より諮問を受けた事項

(2) 役員報酬委員会

- 取締役の報酬体系、報酬決定の方針
- 各年度の個別役員報酬額案の内容
- 前各号に定める事項に関連する開示内容
- 前項以外の役員報酬に関する事項で、取締役会より諮問を受けた事項

【委員会の構成】

役員人事委員会および役員報酬委員会の委員は、取締役会決議により選定された3名以上の取締役で構成し、その過半数は独立社外取締役としております。

また、各委員会の委員長は委員会の決議により独立社外取締役から選定しております。

補充原則4-11-1

当社は、取締役の員数は10名以内とする旨を定款で定めており、環境の変化に合わせて最適な人数を選定しております。また、取締役候補の指名に関しては、任意の諮問委員会として設置した役員人事委員会において、的確かつ迅速な意思決定、適切なリスク管理、業務執行の監視及び会社の各機能と各事業部門をカバーできるバランスに配慮し総合的に検討し、取締役会へ答申することとしております。なお、社外取締役については、その経験、出身分野も含む多様性を意識し、選定しております。当社は、これらの知識・経験・能力等を一覧化したスキルマトリックスを作成しており、当該マトリックスは、「第30回 定時株主総会招集ご通知」の17頁で開示しております。

URL: https://ssl4.eir-parts.net/doc/2737/ir_material/160851/00.pdf

補充原則4-11-2

当社は、取締役・監査役の他の上場会社の役員兼任状況については、有価証券報告書等において開示しております。

(有価証券報告書URL)

<https://www.tomendevices.co.jp/ir/library/securities.html>

補充原則4-11-3

当社は、取締役及び監査役を対象としてアンケート形式での取締役会の実効性に関する評価を実施し、評価結果につきましては事業報告に記載、開示しております。

取締役会における経営陣幹部の選任に関する議論等を課題とする意見が一部ではみられるものの、中長期的な企業価値の創出のためにESGへの対応やSDGsへの取組において会社の取るべき行動を特定し適切な経営戦略の反映に取り組むなど、取締役会の構成、運営状況や審議状況は、取締役会が監督機能を果たす体制としては概ね適切であり、また、取締役会において出席者が積極的に発言し、闊達な議論が行われる風土が定着していると評価できるものと考えられます。

加えて、取締役会の諮問機関である「特別委員会」において、取締役会の実効性評価の検証、改善フォローをおこなうなど、取締役会運営にお

けるPDCAサイクルを確立しております。

今後も、最適なコーポレート・ガバナンス体制を構築すべく、取締役会の実効性の向上に努めてまいります。

補充原則4-14-2

当社は、取締役・監査役に対し、必要な知識の習得や適切な更新等のために様々な研修機会を斡旋し、経営を監督する上で必要となる情報や知識を提供するなど、取締役・監査役が自らの役割を果たすために必要な機会を提供しており、その際の費用は当社が負担することとしています。また、新任の役員に対しては、社長自ら当社の概況及び事業等について説明を行っております。

原則5-1

- (1) 当社は、株主との対話全般については、代表取締役社長が統轄し、常務取締役管理本部長が担当しております。
 - (2) 当社は、経営企画部 広報・IR室をIR活動の事務局と定め、各部門と有機的に連携を取っております。
 - (3) 当社は、アナリスト・機関投資家等に対しては、オンライン決算説明会を年に2回開催、株主に対しては株主総会後に株主懇談会を行っております。(2020年および2021年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、株主懇親会は中止しております。)
 - (4) 当社は、株主・投資家との対話の際に頂いた意見は、必要に応じ、取締役会へ報告しております。
 - (5) 当社は、株主との対話に際しての重要事実の管理として、社内において「インサイダー取引管理規程」の周知・徹底を図るとともに、原則として決算公表30日前を沈黙期間としております。
- また、広報・IR室に所属する役員を含めた全社員は、日本取引所グループの講師が行うインサイダー取引防止に関する講義を受講し、インサイダー情報管理に留意しております。

2. 資本構成

外国人株式保有比率	10%以上20%未満
-----------	------------

【大株主の状況】 更新

氏名又は名称	所有株式数(株)	割合(%)
豊田通商株式会社	1,811,000	26.62
株式会社ネクスティエレクトロニクス	1,599,000	23.51
日本サムスン株式会社	832,000	12.23
BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND (PRINCIPAL ALL SECTOR SUBPORTFOLIO)	524,923	7.71
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	214,700	3.16
BBH FOR FIDELITY GROUP TRUSTBENEFIT (PRINCIPAL ALL SECTOR SUBPORTFOLIO)	91,163	1.34
JPMBL RE CREDIT SUISSE AG, SINGAPORE BRANCH COLL EQUITY	73,852	1.09
株式会社日本カस्टディ銀行(信託口)	52,500	0.77
BNYM AS AGT/CLTS 10 PERCENT	40,914	0.60
EIZO株式会社	30,500	0.45

支配株主(親会社を除く)の有無	
親会社の有無	豊田通商株式会社 (上場:東京、名古屋) (コード) 8015

補足説明

豊田通商株式会社は、当社及び株式会社ネクスティエレクトロニクスにとって共通の親会社であるため、当社に対して最も大きい影響力を持っております。

3. 企業属性

上場取引所及び市場区分	東京 第一部
決算期	3月
業種	卸売業
直前事業年度末における(連結)従業員数	100人以上500人未満
直前事業年度における(連結)売上高	1000億円以上1兆円未満
直前事業年度末における連結子会社数	10社未満

4. 支配株主との取引等を行う際における少数株主の保護の方策に関する指針 更新

当社はグループシナジーの最大化を図る一方で、事業運営にあたっては、親会社からの制約はなく、独自に事業活動を行っております。また、支配株主との取引等を行う際には、市場価格等を勘案した一般取引先と同様の条件に従っており、独立性、公正性を確保するとともに、少数株主の利益を害することのないよう、適切に対応していく方針であります。

なお、特別委員会において、支配株主およびそのグループ会社との取引に関する必要性・合理性・相当性について審議してまいります。

5. その他コーポレート・ガバナンスに重要な影響を与えうる特別な事情

親会社等が議決権の50.14%を所有しております。親会社である豊田通商株式会社との間で、当社の重要な財務及び事業の方針に関する株主総会決議事項、及び経営上の重要事項に関し、その重要性に応じて、事前了解、事前協議または事後報告を経ることを合意しております。一方で、具体的な事業運営に際しては、当社独自の経営判断と意思決定が行われている状況であり、自主性・独立性は確保されていると考えております。

親会社は、当社の事業領域における競争状況や市場環境に鑑み、当社の自主性・独立性を尊重するべく上場を維持・継続することが、事業拡大等の観点から豊田通商グループ内シナジーに寄与するものと考えております。

当社は、同社との人的交流・事業連携を通じ当社グループ全体の企業価値の向上に努めております。

経営上の意思決定、執行及び監督に係る経営管理組織その他のコーポレート・ガバナンス体制の状況

1. 機関構成・組織運営等に係る事項

組織形態	監査役設置会社
------	---------

【取締役関係】

定款上の取締役の員数	10名
定款上の取締役の任期	1年
取締役会の議長	社長
取締役の人数	8名
社外取締役の選任状況	選任している
社外取締役の人数	2名
社外取締役のうち独立役員に指定されている人数	2名

会社との関係(1)

氏名	属性	会社との関係()												
		a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k		
本田 敦子	他の会社の出身者													
前田 辰巳	他の会社の出身者													

会社との関係についての選択項目

本人が各項目に「現在・最近」において該当している場合は「」、 「過去」に該当している場合は「」

近親者が各項目に「現在・最近」において該当している場合は「」、 「過去」に該当している場合は「」

- a 上場会社又はその子会社の業務執行者
- b 上場会社の親会社の業務執行者又は非業務執行取締役
- c 上場会社の兄弟会社の業務執行者
- d 上場会社を主要な取引先とする者又はその業務執行者
- e 上場会社の主要な取引先又はその業務執行者
- f 上場会社から役員報酬以外に多額の金銭その他の財産を得ているコンサルタント、会計専門家、法律専門家
- g 上場会社の主要株主(当該主要株主が法人である場合には、当該法人の業務執行者)
- h 上場会社の取引先(d、e及びfのいずれにも該当しないもの)の業務執行者(本人のみ)
- i 社外役員の相互就任の関係にある先の業務執行者(本人のみ)
- j 上場会社が寄付を行っている先の業務執行者(本人のみ)
- k その他

会社との関係(2)

氏名	独立役員	適合項目に関する補足説明	選任の理由
----	------	--------------	-------

<p>本田 敦子</p>	<p>< 略歴 ></p> <p>1992年10月 司法試験合格 1993年4月 司法研修所入所 1995年3月 同所修了 1995年4月 判事補任官(京都地方裁判所) 1997年4月 東京法務局 訟務部 部付検事 1999年4月 東京地方裁判所 2000年4月 浦和(現・さいたま)地方裁判所 2003年4月 東京家庭・地方裁判所八王子支部(現立川支部) 2005年4月 判事任官(福岡家庭裁判所) 2005年8月 依願退官 2010年4月 弁護士登録(第一東京弁護士会)安西法律事務所入所(現任) 2016年4月 民事調停委員(東京簡易裁判所所属)(現任) 2016年6月 当社取締役(現任) 2017年5月 自動車安全運転センター理事(現任) 2018年6月 公益社団法人全国営職業紹介事業協会 理事(現任) 2020年6月 中央労働災害防止協会 参与(現任)</p>	<p>本田氏は、直接会社経営に関与された経験はありませんが、長年にわたる裁判官および弁護士としての職歴を通じた、法律、特に労務管理に関する専門知識に基づいた意見・助言が期待できること、及び、少数株主を含む全ての株主の視点に立ち関与、監督いただくなど、社外取締役として期待される役割を果たしていただけたものと判断し、選任いたしました。</p> <p>また、独立役員に指定した理由は、以下のとおりであります。</p> <p>同氏と当社との間には、取締役報酬以外の金銭等の授受はないため、一般株主と利益相反が生じるおそれはありません。また、同氏は、安西法律事務所の弁護士、自動車安全運転センターの理事および公益社団法人全国営職業紹介事業協会の理事を務めております。当社は、同事務所とは2015年12月以降、取引はございません。また、同センターおよび同協会と当社の間で取引はなく、同氏の兼職先と当社との間には特別の関係はありません。したがって、同氏は当社の独立性判断基準を満たしており、東京証券取引所の定める独立役員として届け出ております。</p>
<p>前田 辰巳</p>	<p>< 略歴 ></p> <p>1975年3月 京都セラミック(株)(現 京セラ(株))入社 2001年6月 同社取締役 2003年6月 同社 執行役員常務 2007年4月 同社 執行役員専務 2008年6月 同社 取締役執行役員専務 2009年4月 同社 代表取締役副社長兼副社長執行役員 2013年4月 同社 代表取締役副会長 2017年6月 同社 顧問 2019年6月 エレマテック(株)社外取締役(現任) 2021年6月 当社社外取締役(現任)</p>	<p>前田氏は、京セラ株式会社において、取締役を歴任するなど豊富な実績と企業経営に関する幅広い知見を有していることから、当社の経営上、有用な意見・助言が期待でき、及び、少数株主を含む全ての株主の視点に立ち関与、監督いただくなど、その職責を果たしていただけたものと判断し、選任いたしました。</p> <p>また、独立役員に指定した理由は、以下のとおりであります。</p> <p>同氏と当社との間には、取締役報酬以外の金銭等の授受はないため、一般株主と利益相反が生じるおそれはありません。したがって、同氏は当社の独立性判断基準を満たしており、東京証券取引所の定める独立役員として届け出ております。</p>

<p>指名委員会又は報酬委員会に相当する任意の委員会の有無</p>	<p>あり</p>
-----------------------------------	-----------

任意の委員会の設置状況、委員構成、委員長(議長)の属性

	委員会の名称	全委員(名)	常勤委員(名)	社内取締役(名)	社外取締役(名)	社外有識者(名)	その他(名)	委員長(議長)
<p>指名委員会に相当する任意の委員会</p>	<p>役員人事委員会</p>	<p>3</p>	<p>0</p>	<p>1</p>	<p>2</p>	<p>0</p>	<p>0</p>	<p>社外取締役</p>
<p>報酬委員会に相当する任意の委員会</p>	<p>役員報酬委員会</p>	<p>3</p>	<p>0</p>	<p>1</p>	<p>2</p>	<p>0</p>	<p>0</p>	<p>社外取締役</p>

補足説明

取締役の指名や報酬等の決定に係る手続きの客観性や透明性、公正性を高めること、利益相反に関する監督をおこない、コーポレートガバナンス体制を充実させることを目的として、取締役会の任意の諮問機関として「役員人事委員会」、「役員報酬委員会」を設置しております。委員会の構成は、東京証券取引所が規定する独立社外取締役2名および社内取締役1名で構成しております。

なお、各委員会の委員長は委員会の決議により独立社外取締役から選定しております。

< 役員人事委員会 >
社外取締役 前田辰巳(委員長)
社内取締役 妻木 一郎
社外取締役 本田敦子

< 役員報酬委員会 >

社外取締役 前田辰巳(委員長)
 社内取締役 常深 雅一
 社外取締役 本田敦子

【監査役関係】

監査役会の設置の有無	設置している
定款上の監査役の員数	4名
監査役の人数	3名

監査役、会計監査人、内部監査部門の連携状況

【監査役と会計監査人の連携状況】

監査役は、会計監査人の年間監査計画策定時、四半期レビュー時及び期末監査時に、報告・説明会の定期的な会合に加え、会計監査人の往査時にも情報及び意見の交換を行っております。

また、会計監査人が往査する場合には同道し、往査結果について意見交換を行います。

【監査役と内部監査部門の連携状況】

会社の業務活動を厳正中立の立場から検証し、その遵法性並びに経営諸資料の正確性及び信頼性を確認するため、監査室を配置し、「内部監査規程」に基づき、社内の各部門の業務運営状況を監査しております。

監査役は、取締役会への出席、取締役・重要な使用人からの報告・説明などの聴取、重要な会議へ出席するほか、効果的かつ効率的な監査を行うため、監査対象・内容について監査室と連携し監査役監査を実施いたします。また、監査室監査終了後の監査講評会に出席し、監査室長より監査結果の説明を受け、必要に応じ適宜監査役としての意見を述べております。さらに監査室と連携して、内部統制システムの有効性の評価、検証、改善を実施し、内部統制システムの実効性を確保しております。

社外監査役の選任状況	選任している
社外監査役の人数	2名
社外監査役のうち独立役員に指定されている人数	2名

会社との関係(1)

氏名	属性	会社との関係()												
		a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m
神尾 潔	他の会社の出身者													
山田 順	他の会社の出身者													

会社との関係についての選択項目

本人が各項目に「現在・最近」において該当している場合は「」、 「過去」に該当している場合は「」

近親者が各項目に「現在・最近」において該当している場合は「」、 「過去」に該当している場合は「」

- a 上場会社又はその子会社の業務執行者
- b 上場会社又はその子会社の非業務執行取締役又は会計参与
- c 上場会社の親会社の業務執行者又は非業務執行取締役
- d 上場会社の親会社の監査役
- e 上場会社の兄弟会社の業務執行者
- f 上場会社を主要な取引先とする者又はその業務執行者
- g 上場会社の主要な取引先又はその業務執行者
- h 上場会社から役員報酬以外に多額の金銭その他の財産を得ているコンサルタント、会計専門家、法律専門家
- i 上場会社の主要株主(当該主要株主が法人である場合には、当該法人の業務執行者)
- j 上場会社の取引先(f、g及びhのいずれにも該当しないもの)の業務執行者(本人のみ)
- k 社外役員の相互就任の関係にある先の業務執行者(本人のみ)
- l 上場会社が寄付を行っている先の業務執行者(本人のみ)
- m その他

会社との関係(2)

氏名	独立役員	適合項目に関する補足説明	選任の理由
----	------	--------------	-------

<p>神尾 潔</p>	<p>< 略歴 ></p> <p>1972年10月 ㈱米沢製作所(現NECパーソナルプロダクツ(株))入社 1996年7月 米沢日本電気株式会社海外技術部長 2001年7月 同社パーソナルコンピュータ技術統括部長 2001年10月 NECカスタムテクニカ(株)(現NECパーソナルプロダクツ(株))ノートPC事業部長 2002年7月 同社パーソナルコンピュータ事業部長 2003年7月 NECパーソナルプロダクツ(株)執行役員 マーケティング本部長 2008年4月 同社執行役員常務 2008年6月 同社取締役 執行役員常務 2011年6月 当社監査役(現任) 2011年10月 ㈱タカハタ電子 専務執行役員</p>	<p>神尾氏は、当社の主要市場の一つであるPC事業の知識と経験が豊富であり、また役員経験もあることから、これらの豊富な経験と幅広い見識を当社の社外監査役として反映していただくことを期待し、選任いたしました。</p> <p>独立役員に指定した理由は、以下のとおりであります。</p> <p>同氏と当社との間には、監査役報酬以外の金銭等の授受はないため、一般株主と利益相反が生じるおそれはありません。したがって、同氏は当社の独立性判断基準を満たしており、東京証券取引所の定める独立役員として届け出ております。</p>
<p>山田 順</p>	<p>< 略歴 ></p> <p>1975年10月 公認会計士第2次試験合格、扶桑監査法人(後合併により中央新光監査法人、社名変更により中央監査法人、みずぎ監査法人)入所 1979年8月 公認会計士第3次試験合格、公認会計士登録 1982年11月 Ernst & Whinney(現Ernst & Young)オーストラリア・シドニー事務所出向 1997年8月 中央監査法人(後のみずぎ監査法人)代表社員就任 2007年8月 あずさ監査法人代表社員就任 2010年7月 日本公認会計士協会理事、日本公認会計士協会東海会副会長 2014年7月 山田順公認会計士事務所所長(現任) 2016年6月 当社監査役(現任)</p>	<p>山田氏は、長年にわたる公認会計士としての職歴を通じて、財務及び会計に関する専門知識に基づき、社外監査役として、当社に対して有益な意見や率直な指摘をいただき、かつ当社経営意思決定の健全性・適正性の確保と透明性の向上に資することを期待し、選任いたしました。</p> <p>独立役員に指定した理由は、以下のとおりであります。</p> <p>同氏と当社との間には、監査役報酬以外の金銭等の授受はないため、一般株主と利益相反が生じるおそれはありません。また、同氏は、山田順公認会計士事務所の所長を務めております。同事務所と当社の間で取引はなく、特別の関係はありません。したがって、同氏は当社の独立性判断基準を満たしており、東京証券取引所の定める独立役員として届け出ております。</p>

【独立役員関係】

<p>独立役員の人数</p>	<p>4名</p>
<p>その他独立役員に関する事項</p>	

【インセンティブ関係】

<p>取締役へのインセンティブ付与に関する施策の実施状況</p>	<p>業績連動報酬制度の導入</p>
----------------------------------	--------------------

<p>該当項目に関する補足説明</p> <p>業務執行取締役に対し、事業年度ごとの連結経常利益に基づく業績連動報酬を導入しております。</p>

<p>ストックオプションの付与対象者</p>	
------------------------	--

<p>該当項目に関する補足説明</p>

【取締役報酬関係】

(個別の取締役報酬の)開示状況

個別報酬の開示はしていない

該当項目に関する補足説明

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、個別報酬を開示しておりません。

報酬の額又はその算定方法の決定方針の有無

あり

報酬の額又はその算定方法の決定方針の開示内容

1. 基本方針

当社の取締役の報酬は、当社の持続的な成長および経営理念、経営方針の実現に向けた動機付けに資するものとし、株主利益と連動した報酬体系とし、個々の取締役の報酬の決定に際しては各職制を踏まえた適正な水準とすることを基本方針とする。

具体的には、業務執行取締役の報酬は、固定報酬としての基本報酬および業績に連動した報酬で構成し、監督機能を担う社外取締役についてはその職務に鑑み、基本報酬のみを支払うこととする。

2. 基本報酬(金銭報酬)の個人別の報酬等の額の決定に関する方針

当社の取締役の基本報酬は、月例の固定金銭報酬とし、職務の内容および業績への貢献度に応じて算定する。

3. 業績連動報酬等の内容および算定方法の決定に関する方針

業績連動報酬は、事業年度ごとの業績向上に対する意識を高めるため業績指標を反映した金銭報酬とし、経営の基本的な成果をはかる基礎収益である連結経常利益につき、各事業年度の目標値および前事業年度との対比において「評価ポイント算定マトリックス」を用い、達成度の尺度から算定する。

4. 取締役の個人別の報酬等の額に対する割合の決定に関する方針

業務執行取締役の種類別の報酬割合については、中長期的な企業価値向上のための実効的なインセンティブとして機能するよう、固定金銭報酬と業績連動報酬の構成割合については、経営環境、経営状況等を考慮しながら適切に設定する。

5. 取締役の個人別の報酬等の支給時期および支給条件の決定に関する方針

業績連動報酬分も含め、年額報酬を決定のうえ、当該年額報酬額を12等分のうえ、毎月同額を支給するものとする。

6. 取締役の個人別の報酬等の決定方法

客観性、透明性の確保の観点から、取締役会において、職責や業績への貢献度に応じて算定した報酬額を審議のうえ決定する。

【社外取締役(社外監査役)のサポート体制】

経営企画部が窓口となり、取締役会資料を配布しており、また必要に応じて、議案の内容等の事前説明を行います。

2. 業務執行、監査・監督、指名、報酬決定等の機能に係る事項(現状のコーポレート・ガバナンス体制の概要)

当社は、監査役会設置会社を採用しております。取締役会は、取締役会規程に基づき、定時取締役会を原則として月1回、臨時取締役会を必要に応じて随時開催しております。

取締役の員数について、10名以内とする旨を定款で定めております。

また、取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行うが、累積投票によらないものとしております。

監査役会は、監査役3名(内、社外監査役2名)で構成されており、取締役会等の重要な会議に出席し取締役の業務執行状況を把握・監視できる体制となっております。

3. 現状のコーポレート・ガバナンス体制を選択している理由

当社は監査役会設置会社を採用しております。就任している取締役は8名、うち社外取締役は2名であり、いずれも東京証券取引所規則の定める独立役員に指定されており、社外取締役を含め全員が積極的に発言し、迅速な経営判断を行える体制となっております。また、監査役は3名で、うち社外監査役は2名で、いずれも東京証券取引所規則の定める独立役員に指定されており、監査体制の更なる強化を図っております。

当社は、世界トップクラスの半導体メーカーであるサムスングループ製半導体及び電子部品の日本におけるマーケティングを目的として設立され、少数精鋭かつスピードある経営と、優れた情報収集力と技術力を背景に、サムスングループ及び取引先との長期的な視野に立った信頼関係を確立し、今日まで半導体の専門商社として成長を遂げてまいりました。今後も当該スタンスを維持していく所存であり、当社のビジネスモデル、規模等を考慮すれば現在のガバナンス体制が最適であると考えております。

株主その他の利害関係者に関する施策の実施状況

1. 株主総会の活性化及び議決権行使の円滑化に向けての取組み状況

	補足説明
株主総会招集通知の早期発送	当社では、株主が総会議案の十分な検討期間を確保できるよう、招集通知発送前に当社ウェブサイト及び東京証券取引所ウェブサイト「東証上場会社情報サービス」にて閲覧ができるよう開示を行っております。
集中日を回避した株主総会の設定	当社は、より多くの株主が株主総会に出席できる日程への配慮を行うべきと考えており、例年株主総会集中日を避けた開催日設定を心がけると共に、株主総会以外にも株主との対話の手段をより充実させるため、株主総会後に株主総会の様子を事後配信を実施しております。
電磁的方法による議決権の行使	当社は、より多くの株主が株主総会における議決権を行使できるよう電磁的方法による議決権行使を採用しております。
議決権電子行使プラットフォームへの参加 その他機関投資家の議決権行使環境 向上に向けた取組み	当社は、国内・海外の機関投資家の株主総会における議決権行使を促進するため、議決権電子行使プラットフォームへの参加及び招集通知(狭義の招集通知、株主総会参考書類)の英文での提供を行っております。
招集通知(要約)の英文での提供	当社は、国内・海外の機関投資家の株主総会における議決権行使を促進するため、議決権電子行使プラットフォームへの参加及び招集通知(狭義の招集通知、株主総会参考書類)の英文での提供を行っております。
その他	当社は、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とし、会社法第309条第2項に定める決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。また株主総会終了後、株主懇談会を開催し、株主の皆様との対話を図っております。 (2020年および2021年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、株主懇親会は中止しております。)

2. IRに関する活動状況

	補足説明	代表者自身による説明の有無
アナリスト・機関投資家向けに定期的説明会を開催	通期決算及び第2四半期決算発表後に、オンライン決算説明会を開催し、社長自身が決算説明を行っております。また、アナリスト、マスコミ及び機関投資家向けの個別取材に関しても、可能な限り社長自身が説明するよう努めております。	あり
IR資料のホームページ掲載	株主及び一般投資家向けに社長が経営方針等を具体的に説明しているほか、決算関連資料、適時開示資料及び有価証券報告書等の対外発表資料を掲載し、積極的にIR資料の開示に努めております。また、海外投資家からも当社の事業内容を理解していただけるよう、英文ホームページの充実にも取り組んでおります。	
IRに関する部署(担当者)の設置	経営企画部 広報・IR室にIR担当者を設置しております。	
その他	当社は、持続的な成長と中長期的な企業価値向上のためには、常日頃から株主と積極的な対話を行い、株主の意見や要望を経営に反映させ、株主とともに当社を成長させていくことが重要と認識しております。そのため、広報・IR室を中心とするIR体制を整備し、当社の経営戦略や経営計画に対する理解を得るため、株主や投資家との対話の場を設けるなど、株主や投資家からの取材にも積極的に応じております。	

3. ステークホルダーの立場の尊重に係る取組み状況

補足説明

<p>社内規程等によりステークホルダーの立場の尊重について規定</p>	<p>当社は、地域社会、株主、顧客、従業員とその家族といった多くのステークホルダーとの調和を目指し、社会から厚い信頼を得るために、役職員一人ひとりの行動のよりどころとして、2006年7月にトーメンデバイスグループ経営理念及び行動指針を制定し、経営理念の実現に向けた活動を行っております。</p>
<p>環境保全活動、CSR活動等の実施</p>	<p>環境マネジメントシステムの国際規格「ISO14001」認証を2004年1月22日に取得しております。これに伴い、環境理念及び6つの環境方針を定めたトーメンデバイス環境憲章を制定し、遵守に努めております。CSR活動に関しましては、当社の行動指針の基本概念として社会的責任(CSR)を果たすための健全な企業経営の推進に力を入れております。</p>
<p>ステークホルダーに対する情報提供に係る方針等の策定</p>	<p>当社の行動指針には、「適切な企業情報の開示」が規定されており、これはすべてのステークホルダーに対し、当社の事業活動等の経営情報・企業情報を的確にタイムリーに開示するよう、全社的に取り組むものであります。</p>

内部統制システム等に関する事項

1. 内部統制システムに関する基本的な考え方及びその整備状況

当社は内部統制システム構築の基本方針に基づいて内部統制の整備に注力してまいります。

1. 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合し、かつ社会倫理、社会的責任を果たすために行動指針を策定し、取締役及び使用人に周知徹底させる。この徹底のためにコンプライアンスに関する研修等を実施し、取締役及び使用人の知識・認識を向上させる。

また、内部監査規程に基づく定期的な内部監査部門による内部監査を通じ、内部統制システムの有効性の評価・検証及び改善を実施し、内部統制システムの実効性を確保する。

さらに、取締役及び使用人の違法若しくは不正行為、反倫理的行為、またはそれらの恐れのある行為の早期発見、その是正を目的に内部通報制度を設置し、取締役及び使用人の適正な職務執行の遂行に資するものとする。

〔運用状況〕

コンプライアンスに関する研修は、全社員参加を義務付けており、当事業年度も実施いたしました。また、毎年10月をコンプライアンス強化月間とし、あらためて各種法令やルール等についての注意喚起、周知徹底を図っております。

また、内部監査部門は、内部監査計画を策定し、各種監査を実施しております。

内部通報については、社内窓口以外にも社外の弁護士を窓口にした上で、通報者の保護を内部通報規定に明記し、適切に運用しております。

2. 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

取締役の職務の執行に係る情報、文書については、文書管理規程に基づき、文書または電磁的媒体に記録し、適切に保存及び管理を行う。取締役及び監査役は、これらの情報をいつでも閲覧できるものとする。

〔運用状況〕

取締役会関連文書等は、取締役会規則および文書管理規程に基づき、適切に保存および管理を行っており、ISO27001(情報管理)の認証も取得しております。また、監査役からの閲覧の請求があった際には適切に対応しております。

3. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

当社グループの事業及び業務全般に係るリスクを抽出、評価し、その対応策の立案及び管理体制の整備を行う組織として、代表取締役社長を委員長とするリスク管理委員会を設置する。管理対象とするリスクについてはそれを主管する部門が当該リスクに関する規程等を定め、リスク管理の体制構築及び運用・管理を行い、早期発見と未然防止に努めるとともに、リスク管理の状況を定期的にリスク管理委員会に報告するものとする。

また、同委員会は法令及び倫理の遵守、企業の社会的責任の遂行等に関する立案・管理体制の構築・整備を併せ行い、必要な対策を推進することにより、企業価値の向上に資する体制を構築する。

なお、BCP対応など緊急事態発生の際の対策本部設置、情報管理等を迅速に対応できるグループ横断的な管理体制の整備を行い、二次損害の拡大・再発の防止を図るものとする。

〔運用状況〕

当事業年度は、リスク管理委員会を四半期毎に開催し、リスクモニタリングを実施したほか、リスクマップの経営環境にあわせた再整備を行い、重点リスクの見直しと予防・対応策を検討致しました。

また、BCPについては、全社的な訓練を実施するとともに、新型コロナウイルス感染症の対応としては、対策本部を立ち上げ、適時適切な情報収集を行うとともに、迅速な対応策の立案と実施に取り組んでおります。

4. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するため、定例の取締役会を毎月1回開催するほか、必要に応じて臨時取締役会を開催し、法令で定められた事項や経営に関する重要事項の決定並びに取締役の業務執行状況の監督等を行う。

業務の運営については、将来の事業環境を踏まえた中期経営計画及び各年度予算等の全社的な目標を策定し、各部門においてはその目標達成に向け進捗状況及び業績管理を行う。

〔運用状況〕

当事業年度中、取締役会は12回開催され、毎月の取締役会で年度予算の進捗状況および業績の管理を行っております。また、コーポレートガバナンス・コードの趣旨に則り、取締役会資料を事前に配布し、社外役員を対象とした会合では当社事業に係る補足説明を行っており、取締役の職務の執行がより効率的に行えるよう取り組んでおります。

5. 会社並びにその親会社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

当社の子会社、関連会社(以下、関係会社)については、関係会社管理規程に基づき管理を行い、当社グループに係る重要事項については事前協議、報告を求める。

その業務執行の状況に関しては、担当取締役及び所管部門が同規程に従い管理及び監督し、関係会社の業務の適正を確保する。また、関係会社のコンプライアンスに関する重要な事実を発見した場合は、直ちに取締役及び監査役に報告するものとする。

当社は、当該規程に基づき、関係会社に対する適切な監査を実施することにより、また、関係会社における業務プロセスのモニタリングを通じて、リスクの早期発見と未然防止に努め、グループ全体のコンプライアンス体制及びリスク管理体制の構築を行う。

関係会社で重要事項決裁に関する規程・職務権限等を定め、責任明確化・意思決定プロセスの明確化を図り適正かつ効率的に職務の執行が行われる体制を構築する。

親会社との関係については、親会社グループ基本理念の精神を共有した上で、経営の独立性を確保しつつ、親会社の関係部門と連携し、グループ全体での業務の適正を確保する体制の構築に努める。

〔運用状況〕

重要な子会社であるATMD(HONG KONG)LIMITED(以下「ATMD」といいます。)については、当社取締役が常駐しており、ATMDの重要事項に関し、事前了解、事前協議、報告を受けております。

当事業年度中、監査役がATMDの監査を実施し、監査結果を取締役に報告するとともに、監査役から受けた指摘については、監査役会において定期的に改善進捗報告を行っております。

なお、当事業年度には、ATMDにおいて事業継続に重大な影響を与える様な事象は発生していません。

親会社グループの役職員を兼務している役員が2名おり、独立性を確保しつつ、親会社グループとの連携を強化し、グループ全体での業務の適正を確保しております。

6. 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項及びその使用人の取締役からの独立性に関する事項

監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合は、取締役と監査役が協議し使用人の配置を行うものとする。その場合は、当該使用人の任命、異動、評価等人事権に係る事項の決定には監査役会の同意を得るものとし、当該使用人は、監査役の要請に基づき補助を行う際は、監査役の指揮命令に従うものとする。

〔運用状況〕

当事業年度において、監査役から、その職務を補助すべき使用人の要請はなく、専門部署および人員は存在していませんが、必要に応じ、当社監査室と情報を共有し、その監査の質を高めております。また、監査役から要請があった場合は速やかに配置等を行います。

7. 取締役及び使用人が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制

取締役及び使用人、子会社の取締役・監査役及び使用人は、定期的もしくは随時に、または当社監査役の求めに応じ、当社監査役に対し、業務に関し所要の事項を報告するものとする。

取締役及び使用人、子会社の取締役・監査役及び使用人は、会社に著しい損害を及ぼす恐れのある事実を発見したとき、また、取締役及び使用人、子会社の取締役等による違法または不正な行為を発見したときは監査役に報告するものとする。

その周知徹底を図るためにコンプライアンスに関する研修等を有効活用する。

また、内部監査部門の内部監査結果については、監査役に報告するものとする。内部通報制度による通報情報については、受付責任者はその内容、講じた措置等について監査役に報告するものとする。

なお、取締役及び子会社の取締役等は、監査役への報告者がその報告を理由として不利な扱いを受けない体制を整備する。

〔運用状況〕

監査役が取締役会および経営会議等に出席することにより、取締役および使用人等から必要な情報を得ております。監査室長は監査役と定期的に会合し、必要な報告を実施しております。

また、取締役および子会社の取締役等は、監査役への報告者がその報告を理由として不利な扱いを受けないよう徹底しております。

8. 監査役職務の執行について生じる費用の前払または償還の手続その他の当該職務執行について生ずる費用または債務の処理に係る方針に関する事項

監査役がその職務の執行において生ずる費用が発生した場合、またはその前払の請求を行う場合は、速やかに当該費用または債務を処理する。

〔運用状況〕

必要があれば費用の前払いを行うなど、監査役の請求に従い会社法の定めに基づき適切に対応しております。

9. その他監査役職務の監査が実効的に行われることを確保するための体制

監査役職務の監査が実効的に行われるために、代表取締役社長と監査役は定期的な意見交換会を開催するものとする。

また、監査役が取締役の重要な意思決定の過程及び業務執行状況を適切に把握できるよう、監査役は取締役会のほか、予算会議等の重要会議に出席できるものとする。

〔運用状況〕

監査役は、代表取締役および監査室との間で意見および情報交換の会合を実施しております。

また、監査役は、取締役会、経営会議および月次会議等に出席し、監査役の立場から積極的に発言を行っております。

2. 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方及びその整備状況

行動指針に基づき、公正で透明性のある事業活動を行うとともに、ステークホルダーに対し、社会的責任を果たすため健全な企業経営の推進に努める。

反社会的勢力に対しては、毅然とした態度で臨み、一切の関係を持たない。不当要求等の介入に対しては、組織的に対応し、利益の供与は一切行わない。

そのため、対応統括部署及び不当要求防止責任者を設置し、対応マニュアルを整備すると共に、定期的に研修を実施することで社員の意識向上を促すものとする。

また、顧問弁護士、警察等関連機関と緊密に連携し、反社会的勢力に対する対応体制の強化を図る。

〔運用状況〕

反社会的勢力に対し、毅然とした態度で臨み、いかなる名目の利益供与も行わず、反社会勢力との係りを一切持たないこととしております。

関係取引先との取引開始時には、反社会勢力の排除条項を既定した基本契約書を取り交わし、反社会性的勢力の排除に備えております。また、所轄警察、弁護士、親会社及び同グループ会社と連携し情報収集を行っております。

